

令和2年度 第1回
松戸市総合教育会議会議録

令和2年10月8日

松戸市総合政策部政策推進課

令和2年度 第1回 松戸市総合教育会議
次 第

日時：令和2年10月8日（木）

午後1時30分から

場所：教育委員会5階会議室

1 開会

2 議事

議題1 松戸市総合教育会議運営要領（案）について

議題2 松戸市教育大綱の見直しについて

3 その他

4 閉会

◎開 会

○上野総合政策部審議監 本日はご多忙の中、令和2年度第1回松戸市総合教育会議にご参集頂きまして、ありがとうございます。総合政策部の上野でございます。よろしくお願いいたします。着座にて失礼させていただきます。

それでは、開会前にお手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず次第、それから資料1といたしまして、松戸市総合教育会議運営要領（案）、資料2としまして、松戸市総合教育会議委員名簿、総合教育会議連絡調整会議構成委員名簿、資料3といたしまして、松戸市教育大綱の見直しについて、資料4といたしまして、現・松戸市教育大綱の特徴と見直しの視点について、資料5といたしまして、まつどの文化度を高め、文化と教養のまちをつくる、資料6といたしまして、GIGAスクール構想の進捗について、参考資料といたしましては、松戸市教育大綱、それからA3判両面カラーの企画展「松戸と徳川将軍の御鹿狩」関連まるごと江戸時代イベントが配付されております。不足等ございますでしょうか。

なお、議事録の作成の関係から、会議の進行に当たりましては、まずお名前をおっしゃっていただいてからご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより本郷谷市長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

○本郷谷市長 久しぶりで、コロナで、今年の後半になっちゃいましたけれども、第1回目ということで教育会議です。

まず、傍聴人についてご報告いたします。

本日の会議に2人の方から傍聴したい旨の申出があります。松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、これをお認めいたします。

今回の傍聴に関しましては、新型コロナウイルス感染症の対策として、傍聴の方々用に別室に映像を映し、これを視聴していただくことといたしております。傍聴の方々には既に別室に入場されております。なお、これ以降傍聴の申出がある場合は、事務局への受付をもって別室への入室許可にかえることといたします。

それでは、これより令和2年度の第1回の松戸市総合教育会議を開催いたします。

今回の会議の議事録署名人につきましては、伊藤教育長、山形委員の2名にお願いいたします。

それでは、お手元にお配りしております次第に沿って議事を進めます。

◎議題1 松戸市総合教育会議会議運営要領（案）について

○本郷谷市長 まず、松戸市総合教育会議会議運営要領（案）についてです。

事務局より説明をお願いいたします。

○上野総合政策部審議監 それではご説明させていただきます。

まず、松戸市総合教育会議会議運営要領（案）についてでございますけれども、1ページ目

の資料1をご覧頂きたいと思います。

4月1日付け人事異動に伴い、当会議の陪席者等の変更を行う事務的な改正でございます。

2ページ目に参考資料といたしまして、新旧対象条文をお示ししてございます。

要領第4及び第5、陪席者と連絡調整会議の構成員に関し、生涯学習部審議監を削除するものでございます。

また、3ページから資料2として、変更後の名簿を添付してございますので、ご参照いただければと思います。

事務局からは以上でございます。

○本郷谷市長 それでは、お手元にお配りしております、このたびの改正は事務的な変更でありますので、この要領（案）を承認したいと思いますのですが、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

◎議題2 松戸市教育大綱の見直しについて

○本郷谷市長 松戸市教育大綱の見直しについてを議題とします。

現大綱の対象期間が今年度には満了となりますので、前回の会議におきまして、委員の皆様方から次年度以降の教育大綱の方向性等についてご意見をいただいたところでございます。本日も引き続き、個別具体のテーマにつきまして意見等をいただきたいと思いますので、議論に入る前に事務局より説明をお願いしたいと思います。

○上野総合政策部審議監 それでは、松戸市教育大綱の見直しにつきまして、始めに政策推進課からご説明をさせていただきたいと思います。

政策推進課長、よろしくお願いいたします。

○大竹政策推進課長 政策推進課でございます。

それでは、松戸市教育大綱の見直しについてご説明いたします。

5ページの資料3をご覧ください。

こちらは、資料の左側が現在の教育大綱でございます。右側につきましては、今後予定しております新教育大綱の方向性についての、前回までの委員の皆様からのご意見を参考に作成した見直し案となっております。基本理念は変更せず、基本理念を支える4つの柱及び下側の対象期間を見直した内容となっております。

続きまして、6ページ、資料4をご覧ください。

こちらは上側の左に現大綱の4つの柱の特徴を示しております。右側に現大綱での柱にひもづく施策を整理してございまして、その上で下側の現・大綱へ反映させるために重要であるとする視点を記載しております。

現在松戸市全体では、子育て・教育・文化を軸としました都市ブランドづくりなどを進めておりますので、広い視野で考える視点として、資料の下段にそれぞれ記載させていただきました。

子育てにつきましては、左側の市長部局と教育委員会の連携による切れ目ない支援、文化につきましては、真ん中のテーマ1、文化創造都市の実現に向けて、教育につきましては、右側のテーマ2、社会情勢の変化による学校教育として整理しております。

今回は、その中でも今まで議論していないテーマ1及びテーマ2につきまして、赤字の部分でございますが、この後、教育委員会から説明がなされました後に個別具体の議論をお願いしたいと考えております。

政策推進課からは以上でございます。

○上野総合政策部審議監 ありがとうございます。

次に、資料4の見直しの視点につきまして、テーマごとに担当からご説明をさせていただきたいと存じます。

テーマ1、文化と教養のまちづくりに向けてにつきまして、生涯学習部長、よろしくお願いいたします。

○片田生涯学習部長 では、さきのテーマ、今お話がございましたテーマ1であります「文化創造都市の実現に向け、文化と教養のまちを目指して」につきまして、資料5に基づき説明させていただきたいと存じます。

資料3にもお示ししておりますように、新たな松戸市教育大綱の基本理念を支える柱の一つといたしまして、松戸市の文化とスポーツの振興を図ることで、松戸の魅力を高めることを掲げております。

この松戸の文化を振興するということは、市民の皆様にはまず松戸のことをよく知っていただき、そして愛着を持つと同時に誇りを持っていただくことから始まるのではないかと思います。

そこで、資料5をご覧くださいんですが、上段の左側にも記載しておりますように、松戸には縄文時代に始まり、古墳時代、鎌倉・室町時代や戦国時代、江戸時代、幕末・明治時代など、古来からの様々な遺跡や文化財が数多くございまして、近代におきましても、日本の高度成長を支える基盤となりました、日本で初めて計画された団地となる常盤平団地が建設されるなど、いにしえより連綿と人々が生活している地域でございます。

さらに、人々が生活していたことに伴いまして、それぞれの時代には様々な地域の文化があったと思いますが、現在でもその名残といたしまして、市内3か所の三匹獅子舞や万作踊りなどの伝統芸能やお祭りを市民が継承しているなど、3万年の歴史、文化資源がございまして松戸でございます。

また、上段中ほどにありますように、市内の学校や社会人の団体が吹奏楽や合唱などの音楽においても全国的に活躍していたり、一流の音楽公演や演劇、歌舞伎等舞台芸術を鑑賞できる場が充実していること。かつて松戸にあった千葉大工学部の前身となる東京高等工芸学校に関わる芸術家や、松戸で活動された芸術家など、松戸にゆかりのある芸術家の作品を所蔵し、これを市民の皆様を紹介するなど、質の高い芸術資源を有しております。

一方、本市には上段右側に記載のとおり、学習をする場として活用される図書館が、本館・分館合わせて20か所ありますことは、他市にはない松戸市の大きな特徴でございます。

さらに、500を超える社会教育団体が音楽や美術等の文化的な活動をしており、これらの団体が主体となり、文化祭や美術展、音楽祭なども開催されるなど、子どもから大人まで多様な方々が芸術や学習活動に携わっているまちでもあります。このように、いにしえより培われてきた歴史資源や質の高い芸術資源を背景に、そして市民が取り組んでいる芸術・学習活動をしっかりと伝え、育てていくことは、松戸の文化を醸成していくことにもつながるものと考えております。

そこで、このような活動のために、中段にお示しするように、博物館や戸定歴史館、文化会館といった文化の拠点があり、また図書館や公民館など、生涯学習に関連した知の拠点がございますが、これまでもこれらの施設を中心に様々な事業を展開してまいりました。

しかしながら、これらの施設の活用状況について、アンケート調査からは、一例といたしまして、図書館については半数程度、博物館については3割程度の方が利用経験があるとの回答で、この状況は私どもの課題として捉えているところでもあります。

市民の皆様にも、より松戸を知っていただき、さらに松戸に愛着を持っていただくためにも、市内にあります様々な文化施設を知っていただき、ご利用いただくことが重要なことと考えており、さきにも申し上げましたように、各施設で利用者を増やすための工夫をこれまでも試みているところでございます。

このような背景の下、今後も下段にお示しするように、子どもや子育て世代、若者などにも松戸の歴史的価値や魅力を知ってもらい、松戸に愛着と誇りを持つ市民を増やしていくこと。そして、市民の文化・芸術・学習活動を支えることで、生きがいや幸福感を持っていただくとともに、国際的視野を持って活躍する市民を増やすこと。そして、国内はもとより、世界にも松戸の文化的価値や魅力を大きく発信し、知っていただくことといったことなどで、文化のまち・まつどとして、この文化的価値をより多くの方々に認識していただき、これが松戸の都市ブランドの一つになることを目指してまいりたいと考えております。

そのためにも、まずは今まで以上に市民へはもとより、多くの皆様に市内の文化施設を利用し、市内に点在している多くの文化財などの歴史的資源を知っていただくことが大事になると思います。そこで、各施設で取り組んでいる企画や講座を開催した際に、関連する情報をそれぞれの施設において市民に情報提供する仕組み、具体的には博物館などで展示している内容や、市民向けの実施している講座に関連した情報や書物を図書館でも特集し、所蔵する資料があれば特設コーナーやウェブなどで紹介するなどが考えられます。さらに、図書館・公民館・博物館・戸定歴史館といった施設が、共通テーマで講座や企画展を開催することなども考えられます。

このように、各施設が連携し、事業を展開することで、施設間における来訪者の回遊性が期待でき、利用者の増加にもつながると思料されることから、これまで以上にこのような取組を進めてまいりたいと考えております。

また、このような連携は文化施設などの教育委員会内の施設にとどまらず、公園や地域が主体となっている活動との連携も重要であり、今後さらに推し進める必要があると考えております。

一例といたしまして、お手元にも資料としてこのパンフレットをお配りさせていただいておりますが、現在博物館では江戸の御鹿狩をテーマにした企画展を開催しておりますが、この開催に合わせ、隣接する21世紀の森と広場や森のホール、常盤平児童館、さらに図書館などと連携して、様々な催しを行っております。

そのほかにも、戸定邸やその庭園を活用して、経済振興部では「科学と芸術の丘」を開催しており、これに合わせて、戸定歴史館などとも連携した催しを検討してまいりたいと考えております。

このように、施設間における連携や、公園施設や地域の活動との連携を、今後もさらに広げていくことが重要なテーマと考えております。さらに、一昨年改定されました文化財保護法に規定されております文化財保存活用地域計画や、本年5月に制定されました文化観光推進法に基づく地域計画を、文化財をしっかりと守り研究し、これを市民に知っていただくことに加え、観光資源としての活用も見据え、関連部署とともに作成し、運用することも進めてまいりたいと考えております。

一方で、これまではどちらかといえば施設や開催する講座に市民の皆様に来ていただいて、情報を提供することを中心に行っておりましたが、コロナ禍に伴い、ウェブを活用した試みにより、より多くの方々への情報提供の有用性について、改めて認識することができました。このことから、今後はこれまでの手法に加え、インターネットツールを活用した情報提供も積極的に取り組むよう進めてまいりたいと考えております。

また、この取組は市で催すものだけではなく、例えばさきにもお話しいたしました市内の社会教育団体の活動についても、活動をより一層活性化させるお手伝いとして、ウェブなどにより紹介するなどの支援が検討できるのではないかと考えております。

以上が、雑駁ではございますが、松戸の文化度を高め、文化と教養のまちをつくるための取組についてでございます。

以上でございます。

○上野総合政策部審議監 ありがとうございます。

次に、テーマ2、GIGAスクール構想の進捗について、引き続きご説明をさせていただきたいと思っております。

指導課長及び教育企画課長より順次ご説明いたしますので、よろしく申し上げます。

○吉野指導課長 それでは、資料を基にGIGAスクール構想の進捗状況についてご説明

いたします。

まず、ICT活用計画及び達成状況を踏まえたフォローアップ計画についてです。

各年度におけるICT活用目標ですが、2019年度は、小中学校において週1回から月1回程度の活用を目指してまいりました。2020年度は整備完了後、各クラス1日1回以上を目指してまいります。2021年度以降は全校整備を完了いたしますので、引き続き1日1回から2回以上、2022年度には1日2回から3回以上活用できることを目標としてまいります。

臨時休校や分散登校中等の学習支援として、Web会議システムを利用した朝の会の実施や、学校ホームページまたはクラウドサービスを利用した学習用動画、課題の配信を予定しております。また、学習支援ソフト等を用いて、学習課題の配信や改修、学習状況把握を実施します。

Web会議システムを利用した同時双方向型の遠隔・オンライン教育に関しては、今後も検証していく予定です。

続いて、指導体制の強化への対応です。

1人1台タブレット、端末導入に当たり、2021年にはICT支援員を8校に1人、2022年度には4校に1人配置し、授業支援、環境整備、校内研修等のサポートを行うことができるよう、市の財政面で予算を要求してまいります。また、デジタル教材を教員間で共有したり、授業では端末を使って児童・生徒に共有したりすることで、授業準備や授業中の負担の軽減を目指してまいります。

最後に、達成状況を踏まえたフォローアップについてですが、各年度終了後に各学校の活用状況の取りまとめを行い、結果を公表します。目標未達成の学校については、ICT活用に関する研修を実施いたします。

指導課からの説明は以上でございます。

○上野総合政策部審議監 では、続きまして教育企画課長、お願いします。

○菊地教育企画課長 教育企画課でございます。

それでは、指導課からご説明がりましたが、私のほうからはこのGIGAスクール構想に向けての各学校への整備面、環境面についてのご説明をさせていただきます。

資料6の右側、2、3につきまして、関連がございますので一括してご説明をさせていただきます。

6月補正予算で承認された、国のGIGAスクール構想の前倒しの補正予算におきまして、本市では市内小中学校計65校、総数約3万4,000台のタブレットを、児童・生徒全員に1人1台の配布に向けて整備をさせていただくこととなりました。現在、その整備に向けてのことを進めておりますが、その整備計画におきましては、3のほうの整備計画に基づき、現在進捗をさせていただいているところでございます。

2番のほうの通信ネットワーク環境整備計画とこの1人1台端末整備については、同時

進行を行い、こちらのネットワーク環境整備を行った後、端末を整備するという形で、両輪で進めているものでございます。

現在、ネットワーク通信については、校内のLAN整備を本年度中に1人1台のタブレット整備とともに進めているところでございます。こちらの、今お手元にお見せいたしました、こちらが各児童・生徒1人1台にいくタブレットの現物でございます。若干重たいものではございますが、キーボードが配置されており、また、画面のほうは取り外しができるような形で、こちらのほうを児童・生徒に1人1台、本年度中に整備をしていくものでございます。現在、中に入れるソフト等についての検討等を含め、進めているところでございます。

最終的には、2月の末に全校・全員に配置する予定でございますが、こちらの整備計画に基づき、10月下旬にはこちらのGIGAスクールの研究指定校を優先的に順次整備し、その中で、実際に現場のほうで実証や検証を行いながら、また課題なども含め、最終的には2月に全校配置し、来年度4月から全校一斉な活用ができるよう、現在進めているところでございます。

内容につきましては、先ほど指導課長からご説明があったとおり、こういったものを活用しながら、市内の小中学校のICTの活用をさらに進めていくということで、学校教育部、生涯学習部、現在一丸となって、そちらの整備に向けて事業を進めているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○上野総合政策部審議監 ありがとうございます。

ここで1点お願いでございますけれども、傍聴室の音が小さいため、できるだけマイクに近づきまして発言をいただけますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局からのご説明といたしましては以上でございます。

市長、よろしく申し上げます。

○本郷谷市長 資料の説明は以上のとおりです。

意見交換の前に、ここまでの説明について担当への質問があればお願いしたいと思います。何か質問ありますか。

よろしいですか。

それでは、テーマに従って、今日は自由に意見を言っていたということかなと思います。

テーマ1、テーマ2というふうに書いてありますので、テーマ1の文化創造都市の実現に向けてという視点、それから2つ目の社会情勢の変化による学校教育という視点、それから3番目としてその他ということで、3つぐらいに分けて、意見があれば言っていればなど、こんなふうに思います。

これは総合教育会議ということで、教育委員会の中の教育会議じゃないので、市長部局

の教育委員会担当の伊藤副市長もみえていますし、広い意味で、縦割りで教育委員会だからと、こういうことじゃなくて、文化も教育ももっと広い視点で捉えて議論していただいたほうがいいなというふうに思います。

今、文化といったときに、教育委員会でやっておる文化もありますけども、経済振興部のほうでいろいろなイベントを行っていますし、パラダイス・エアという海外から芸術家を招くような事業もしていますし、いろいろな事業を文化という、広くやっておりますし。

それから、スポーツなんかでもただ単に子どもたちとか市民生活のスポーツというだけじゃなくて、プロスポーツみたいなものを誘致することによって、スポーツの文化度みたいなのを上げていく、あるいは子どもたちに大きな刺激を与えていくというような視点もあると思いますので、そういう広い意見を言っていたらいいのかなと。取りまとめるときは、それぞれの部門ということになるでしょうけども。

今日は特に何か決めるということにはなっていませんので、1つ目は文化関係、2番目は学校教育関係、3番目その他ということで、順番に意見があれば聞いていきたいなと、このように思います。よろしいですか。

じゃ、そのように進めさせていただきます。

最初に文化という視点で、どんな視点でも結構です。ご意見があれば今後の検討に反映させていきたいと思いますので、お願いいたします。

どなたからいきましようかね。文化の、一番文化的な人からいきますか。

○武田委員 武田でございます。

市長にそう言っていただいたので、僭越ですが先に、この資料を読ませていただいたの意見という形で、まず幾つか思いつきましたことを話させていただきたいと思います。

今さっき、市長の口からも出ましたパラダイス・エアなどは、やはり教育委員会と離れたところで運営されているんですけども、以前このパラダイス・エアに来てくださった作家さんが、青少年会館の文化祭でワークショップをなさってくださったんですね。そのときに少しお話をさせていただくと、やはりそういった子供たちとの交流を持つことを望んでらっしゃるというふうにおっしゃっていたんですが、なかなかそういう機会を持つことが難しいとも話してらっしゃいました。

また、このパラダイス・エアのサポートをしてくださっている東京芸大の講師の方が、たしかいらっしゃるはずなんですけれども、その方と話す機会があったときに、作家さんのほうからやはり学校の教育現場に、国際交流という視点、美術教育という視点で、何かそういうワークショップみたいなことはできないだろうかという相談を持ちかけられたことがありました。ちょっとこういうお話があるんですけどもということで教育委員会の方に話したことはありますが、なかなかそれが現実的に受け入れるということになると、これだけ年間スケジュールが過密になっている教育現場の中で、果たして無計画にそういった企画が入っていいのかというとなかなか難しいようです。でも、せっかく長くやっ

てらっしゃる事業なので、先々はせっかく来てくださっている外国のアーティストと子どもたちとの交流が持てるような形に、国際交流と文化事業という意味でできたらいいなと思います。

私自身も、去年と一昨年前と、学校の授業に参加できることはないだろうかということ、漆工芸の手法の、卵殻と貝の螺鈿の授業と、金箔や日本画材を使った授業というのをさせていただいたんですが、ただ、これもあくまでもご理解のある校長先生が挙手をしてくださって、初めてかなうことでした。今英語教育とか道德教育とかいろいろなものが入ってきて、ましてやICTの活用で先生たちも本当にご苦勞の多い中で、新しい時間をとるといふこと、特に美術だと、授業が専科になる教員がいるところはいいですがけれども、いないところだと、やはりなかなかそれを担当してくださる先生を探すことが難しいということもありました。

ただ、できれば松戸というのは、地場産業とか工芸的な文化が基本的にはない地域なので、むしろ無作為的にいいと思うものを経験するチャンスは、逆に地元意識などに捕らわれるのではなく選択することができるのではないかという利点があります。ただ、日々においてはなかなかそういうものに触れるチャンスがないというところで、願わくはいろいろな方が、1つでも2つでも時間のない教育現場に無理を通してできることというものはないだろうかというふうに想像します。

ちょっと長くなってしまいますので、このぐらいで一回切ったほうがいいですか。それともほかの話。

○本郷谷市長 いいですよ、どうぞどうぞ。

○武田委員 資料5のほうで見させていただいて、質の高い芸術の資源というところにごく着目したんですけど、もちろん史跡・名勝に関しては言うまでもないというか、レベルの高いものがそろっています。午前中の教育委員会会議のときにも博物館の学芸員さんから少しお話しをしていただいたんですけども、史跡を巡るツアーなど、生涯教育の中ですごく人気のある事業としてなさってらっしゃるということを知って、本当に心から安心して、どんどんそれが発展するといいなと思いました。

ただ、質の高い芸術資源のあるまちという中で、これだけ認知しておられるのに、全国レベルの吹奏楽とか合唱であったりとか、一番下の東京高等工芸学校のデザイン資料という意味での松戸独自にあるものというのが、今現在何かに活かされているかというところ、そうでもないところ、ちょっと問題だなというふうに思います。

文化がもともとある場所とか、史跡が観光名所になっているという土地柄ではないだけに、松戸は逆に新しいものを構築していくということも可能なんじゃないかと思います。21世紀の森の活用などもすごく以前から問題視されているんですが、なかなかそこにくっついていかないと。

これは単に私の妄想なんですけれども、あそこの水上にステージを造って、ドイツのヴ

アルトビューネのような、ピクニックコンサートみたいなものが毎年できるとか、これだけ子どもたちがレベルが高い中で、そういうものが積み重なって毎年卒業していく中で、プロになる方が出てきたりとか、逆に外部でプロである方が、そこに参加してもいいよと
思っただけのような舞台に、その舞台を生涯教育的な市民の交流の場に育てていく
ということが叶ったら素敵ですね。

卒業生たちが同窓会のように集まって、そのコンサートを開くことを楽しみにして、生涯の楽しみとして楽器に触れて大人になっていくというようなことはできないだろうか、
いつも21世紀の森を見るときに思うんですね。そういったことが、例えば10年、20
年という時間をかけて構築できたら、例えば松戸のあの21世紀の森のコンサート聴き
に行こうよと、都内の人々が聴きに来てくれるようなところまで行ったら、本当にそれは幸せ
なことだなと思います。

同じように、東京高等工芸学校のデザインというのは、「松戸のたからもの展」という
展覧会が博物館で先日ありましたけれども、非常にレベルの高いもので、剣持勇先生の作
品などは今でも実際に作られていて、山形のほうの家具のメーカーで作っていますから、
ぜひ松戸市の処々に使っていただきたいなと思っています。

インダストリアルデザインとして、職業としての美術というものを、松戸を卒業した子
どもたちは一度は体験するんだみたいな、そういうことを美術教育の中で例えばやってい
ただけたりすると、このかつてあった学校の歴史と残された所蔵品を知るチャンスにもな
りますし、そして職業としての美術というものを、一度は意識するチャンスにもなるのか
なと思います。

その中で、もしかして5年、10年という取組が続く中で、子どもたちの中から1人で
も、そういった作家であったりデザイナーであったりという方が出てくると良いなという
ようなことを、意識として育てていくまちなんだよというような価値のつくり方、5年後、
10年後を目指した価値のつくり方というの、あるのかなと思いました。

以上でございます。

○山形委員 山形です。

テーマ1の文化創造都市の実現に向けてというところで、私は武田さんの芸術的などこ
ろという切り口とは別の角度で、生活としての文化観で意見させていただきます。海外旅
行に行った多くの方が、子連れで街を歩いていると、みんな優しく声をかけてくれる。こ
のコロナ禍において、オンラインで世界中のお母様、助産師とつながることができました。
駐在を繰り返している中で、タイとかバンコクに駐在していた助産師さんが、そこでかけ
られた声が、自分の子どもでもないのにもかかわらず、かわいいね、と何かを買って与え
てくれるような、そんな優しい空気、文化が諸外国にはあると思います。

日本は一方、どこか子どもさんが泣いていても、誰も声をかけないシーンや、私はおせ
っかいなおばさんなので、すぐ近寄っていったりはしますが、子どもに優しいという、そ

この文化風潮というのが、市のコンセプトにある「やさシティ、まつど」というところにもとてもつながると思いました。

人に優しくすることが他者貢献であることという前提と、人に優しくすると脳内ホルモンのオキシトシンが実は出るんですね。絆ホルモン、愛情ホルモン、科学的にも根拠があります。そういうような見せ方を文化として見せていって、子どもを宝とする街と、もう一つ、子育てをする人も宝、育てる人も宝だし、子育てを応援する人も宝だという部分を、文化として見せていくことができるのではないかと思います。

その中で、どんなふうにそういうのを実現可能にするかという、やはり言葉の使い方だと思います。何か一つするにせよ、何か道ですれ違った、ベビーカーとすれ違うときに、道を少し譲るときに、皆さん「すみません」とおっしゃいますが、例えば「ありがとう」と言えること。私はなるべくありがとうと言うようにしているんですけども、子育てしながら「すみません」と頭を下げるんじゃなくて、「ありがとうございます」というような、その優しい言葉遣いの経験、それも言葉をかけられた経験なのかと思います。

この資料の5のところにある、松戸に愛着と誇りをというところの、私は愛着のところにとっても注目をして、そんなふうにオキシトシンとか他者貢献とか愛着形成というところでの優しい言葉はどんなふうに育っていくのかという、かけられることとやはり学ぶことで、図書館に注目すべきなのかと思いました。利用者数が50%というところで、私はもともと本が好きで、子どもにも本をたくさん読み与えて、たまたま私の娘たちは本が好きになったんですけども、やはり特徴のある魅力的な図書館があることが子どもも大人も本を手にとるチャンスが増えることになると思います。

フィンランドの建国100年のときにできた、国を挙げたオーディという図書館があります。そこは国民のリビングルームという名前のコンセプトで造られています。入ってソファがあって、子どもたちが十分遊ぶスペースがあったり、本当に皆さんくつろいでみたい、そのようなコンセプトのある魅力的な図書館があり、新しい本に触れ、文化に触れていくことというのが、重要性が高くなると思いました。

また、図書館がたくさんあるというところでも魅力の部分の中で、選ぶこと、自己選択すること、〇〇の図書館じゃなくて、△△の図書館とか、いろいろ選べるということの自己決定というのも幸福度につながっていくので、そのような自己決定もできる魅力的な、それぞれの地域に合わせた魅力的な図書館運営や、言葉を丁寧に扱う部分での、文化創造としての講座や生涯学習のほうも続けていただけたらなと思います。今配られているブックファースト、ブックスタートで配られている絵本も、やはり松戸だからこその本を選んだというような、コンセプトのあるようなものに変化をしていったほうがいいと思っています。

私の考えたところの文化創造については以上です。

○伊藤委員 伊藤です。

資料5の文化についてですが、市民の文化度とか文化水準を高めるというのは、どういうことをすればそれが高まって、それがどういう形で検証できるのかというのは非常に分かりにくいので、なかなか難しいと思うんですけども、今いろいろなお話を聞く限りでは、松戸の文化施設も充実しているし、いろいろな活動もさかんだということで、松戸の文化度というのはかなり高いんだらうというふうに、私自身は思っています。

ただ、そういう活動にしる施設にしる、松戸市民の中にまだまだ浸透していない、知らない人が多い。例えば戸定邸にも行ったことがない、名前も知らないというような市民も多分いるんじゃないかと思えますし、かつ、それが日本全国というか、世界とかそういったところへの周知ということで言えば、もうほとんどなされていないところだと思います。

ただ、経済振興部のほうで行っているいろいろな文化の振興、特に創造都市の試みの一環として行われている例えばパラダイス・エアは、一定の人たちに限られていると思うんですけども、かなり多くの応募者があって、松戸で芸術活動をしたいとか、そういうような人がいるということは、非常に勇気づけられることだらうと思えます。

いずれにせよ、そういう活動、取組ですかね、松戸のそういう文化面における取組をもっともっといろいろな形で、若い世代だけでなく世界に向けて、あるいは日本全国に向けて、いろいろな形でもっとPR、発信していくということが、今もやっておられると思うんですけども、まだまだ不十分だらうと思えますので、インターネットツールを使うことにとどまらず、若い人たちはそれで十分だらうと思うんですけども、そうじゃない人たちに向けては、何かもっとビジュアルで訴えるような動画であったり、あるいは出版物というような形でやっていただければと思います。

私もいろいろ日本を最近旅行しているんですけども、その地域のいろいろな魅力的な、非常にきれいな数ページの冊子とかなんかも用意されていて、無償で配られているのなんか、ふと手に取って持って帰りたいなと思うようなきれいなものがあつたりするんですよ。そういったものに物産とか文化とか魅力あるものを掲載してPRするというので、なかなか効果のほどというのは、1年、2年では出ないのかもしれませんが、そういったいろいろなPR、認知に向けての努力をもっともっていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○市場委員 市場です。

今伊藤委員からおっしゃったように、松戸の文化度、文化水準というのが相対的に高いのか低いのか、これからもっと上げていく努力をどんどんしなきゃいけないのか、現状続けていくと自然に良くなっていくのか、あまりそういう判断はつきません。

確かに、松戸が文化度の高いまちというイメージがあるかと言われると、それはあまりないのかなという気がします。ただ、僕の子どもが小さい頃地域の合唱団に入っていましたけど、合唱団の発表会は文化祭のときに森のホールでやるんですけど、そうすると講評

の先生から、こんなすばらしい箱でこんなすばらしい合唱祭ができる地域なんてめったにないよというような講評があったりして、そういう意味でいくと、別に松戸は決して劣っている場所ではないんだろうなというふうに、僕は思っていました。

ただ、イメージとして文化度が高いかと言われると、どうかなと。イメージを高めるためには、さっき市長がプロスポーツを招致することも方法としてあり得るとおっしゃいましたが、確かに核となって、大きな花火として上がるようなものがあつたほうが、分かりやすいことは間違いないと思います。その核となるものは、さっき武田委員がおっしゃったように、幾つか松戸に既にあるんじゃないかと思うので、それをもっと大きな花火になるように少し戦略的に考えるということも、確かにあつてもいいのかな。

それと同時に、もちろん並行していろいろな活動を地道に続けていくということはあるんだけど、それはそれとしてやっていくとして、大きな花火を打ち上げられるような何か戦略的なやり方があつても、イメージを上げるという意味ではありかなというふうにも思っています。

ちょっとあまり具体的にまとまりませんが、以上です。

○山田委員 山田でございます。

今回は教育大綱の見直しという大きな枠の中で、ポイントとして、文化創造都市の実現に向けるという視点を入れようという趣旨で、事務局が今これをご用意いただいて、テーマを設定していただいたんですが。

その視点から、文化創造都市、これは言葉とすると響きは良いといいますが、耳障りは良いんですが、ちょっと大変生かじりのことで受け売りで恐縮なんですけども、じゃ、文化って何なのかというところを、ちょっと私の勉強した範囲で。

これは山崎正和先生という、中教審の会長を以前なさっていた先生の本の中で、文化とよく使われる文明というものを、このように先生は定義しています。

文明というのは、四大文明とか五大文明とかあつたように、それが世界に広がっていく。そして衝突していよいよ力を増していく、これが文明であるということです。対して文化というのは、その文明から生まれたものを身体化できたこと。身体化した文明、これは別の言い方もしていますけども、身体化した文明を言うと。

例えばという話で、ピアノというのは音楽というものを、五線譜と、それからそれをもう目に見える五線譜を形として楽器化したものがピアノであつて、これは文明の所産だ、先生はそういう分類をしているんです。ところが、そのピアノを使って何を奏でていくか、何を感性を發揮していくかということは、これは文化であると。

文明というものは、ピアノが世界の音楽に活用される、つまり席卷したように広がっていく。言い換えれば、コンピューターが、今GIGAスクールもありますけども、広がっていくように広がっていく、世界に軒並み広がっていくものを文明だとしたときに、文化というものは逆に個に向かつていく働きがあると。だから、ピアノがあるからといってみ

んながピアノを弾けるようにならない。例えば漆工芸の作品に感動した人が、みんなが漆工芸作家になれるかという、これはならない、あるいはなれないという意味で、文化というものは個に向かうというんですね。

そういった意味で、文化が創造される、文化が発信されると、そういう分類で見たときには、必ずしも統一した何かをやろうと思うと、多分文化というものは非常にお仕着せなものになるんだろうと思います。

という中で、じゃ、松戸に何があるのか。先ほど地場産業がないということが一つのメリットだ、何かに縛られない、何かの印象がない、その中で何をやるかといったときに、じゃ、松戸に何があるかと考えると、これは教育委員会的には、我田引水ですけども、例えば英語教育とか、それから世界につながるとか、そういったことは、これはパラダイス・エアでもそうですけれども、世界に広がるようなステージを用意できないか。例えばそういうことです。

音楽のすてきな演奏できる子どもあるいは学校が多いのであれば、それが世界に通じるようなことができないか。今ICTに力を入れるのであれば、ICTと融合してできるものはないか。そういった、みんなの共通項になり得るもので、先ほど武田さんがおっしゃった、例えば水上ステージを森のホールにできて、夏に1週間のそこに、入れ代わり立ち代わりみんながやるコンサートが水上ステージでやる、あるいは例えば薪能をやるとか。

もしそういう空間ができたときに、この首都圏この一円で見たときに、ほかにないものになるというような例えば共通軸となって、うちに何があるんだよと。松戸にこういうものがあるんだよと誇れるようなものになる。これが愛着になると。例えばそういうようなことを、施策としては向かわないといけないのかなと思いました。

ステージを造るというのは、個別化していく、区分されていく文化の発信の場として、表現の場としてそういうことがもしあったときに、これは幾らお金がかかるか分かりませんし、維持も大変だと思いますけども、そういった共通項の中から文化的な誇れるものをつくるということがあると思います。

文化創造都市、文化を生み出す都市というときに、文化というものは、個人が身体化した、自分の体に身に着けた何かを表現する、それを発揮できる場面をどうつくるかという視点で、今感じていることを申し上げました。

以上です。

○伊藤教育長 伊藤です。

皆さんの話をお伺いしながら、改めて松戸市の文化、うーん、文化ってね、というふうに変えながら、何を私から述べればいいのかと考えていました。

いろいろな文化というか、以前から武田委員さんがおっしゃられているように、本当にたくさんの種類のエキスパートさんが松戸にはいらっしゃる。そういう意味で、そこにさらにパラダイス・エアみたいに外から入ってくる人たちも、活躍をちゃんとしている。い

ろいろな活躍している人たちがたくさんいらっしゃる。いらっしゃるんだけど、それをなかなか松戸市全体の発信としてできない。ですから、何か核になるものという意見にはすごく賛成します。

パラダイス・エアが核になるようなエネルギーをもっと得られれば、それはそれで可能性はあるだろうし、先ほどの水上ステージの話も、もし軌道に乗ればそれはなるだろうし、今年は残念ながら今中止の方向なんですけど、初めて中高生の、小か、吹奏楽の全国大会が森のホールで計画されて、来年度は絶対実施できると思うのですが、初の全国大会の開催のようなものが核になってくれれば、それはそれで可能性はあるでしょうと思っています。

いずれにしても、発展途上なんだなというふうに改めて思いました。これはでも、マイナスのイメージで発展途上ではありません。私の立場でいろいろな会議に出たときに、いろいろな分科会があって、その分科会を選ぶときに、あえて生涯学習を選ぶことが多いのです。これは以前から市長さんともいろいろな話の中で、やはり生涯学習全体が大事で、どういうふうにほかの自治体は、というクエスチョンマークがあっていつも出席するのですが、いつも終わると寂しい。

なぜかというと、教育委員会はほとんどの自治体が学校教育だけで仕事をしている。人生の中では一部なのに、何でもっと広くいろいろなトライアルをしていないのかなというふうに考えたところがあります。ですから、小さいという語弊があるけど、地域の一つの産業が突出して特色をつくって、そこが文化の中心になっているというところは、すごく分かりやすく文化に力を入れているというイメージを持ちやすい。外から見ると。

そういうところからすると、本市はすごく難しいんですけど、でも、生涯学習全体あるいは文化全体で言うと、可能性としてはいろいろな要素を持っていて、これから何を核にして全体をさらにレベルアップしていったらいいかなというのを考えるチャンスに、今は来ているのかなという気がします。

市長さんともいつも、そういう文化の方向性では意見が一致していると私は思っていますので、ぜひ今度の大綱の改定を契機に、またそういう方向性を明確に表すことができたらというふうに思いました。

以上です。

○武田委員 どうしても松戸で文化をという話になると、トップランナー的な子を育てるみたいなイメージになってしまうのは、あまり現実的ではなくて、それは個々の頑張りによるところなんだと思います。一つ、一番簡単にできそうだなと思っていることで、図書館がこれからリニューアルしていきますよね。

私はよく美術館の中にある図書館に行くんですけども、というのは、全国の美術企画展の図録が置いてあるからです。よく松戸に美術館が建たない理由として挙げられるのが、上野が近くにあるからいいじゃないかと、よくおっしゃる方がいらっしゃいます。これは

全然、実は全く違う意味合いなので、ここでは議論しませんし置いておきますけれども。

でも、そういう意識がもしあるならば、松戸から簡単に行ける沿線の近くにあるような美術館ないしホール、演劇、いろいろなものの図録とかパンフレットとかポスターとかを全図書館に置いていただきたいです。「今これをやっていますよ、興味あったら行ってみたいかどうか、楽しいですよ。行けなくても、この本を読むと、今やっているこの公演の内容が分かりますよ」というような提案図書を、常に一つのコーナーがあって見られるという環境をもしつくってくださったら、恐らく今よりも松戸の市民の方が行ってみようかなと思うかもしれない。

市がそのような企画にちょっと助成をしてくださったりすると、あるいはその延長上に、生涯学習的にディスカッションをする場をつくってくださったら、きっと盛んにそういうものを楽しむ高齢者とか、高齢者じゃなくても現役の吹奏楽部生とか、合唱の学生とかが行こうと思うかもしれない。あるいは親におねだりするかもしれない。行けなくても、そのとき行く力がなくても、大人になったら行ってみたいと心に思うかもしれない。そういうことを喚起するようなコーナーをぜひ、図書館につくってほしいですね。

これは多分、すぐできる。高齢の方がどんどんこれから増えていきますと、少し遠い美術館とか行けなくなります。だけれども、美術館図録があつた図書館にあるとなると、通う方はいます。私は、同じメンバーに美術館図書館で会います。3館分の展覧会をまとめて図録を見られるんだつたら行きたいと思う、そういう方の事情って、もし松戸市民で美術に興味がある方の需要が高かつたら、かなりな程度であると思います。

それらが無駄にならないのは、小学校とか中学校の美術教育で、何らか関連があるときに貸出しすることもできるので、全く無駄にはならないし、図録は財産だと思います。ぜひこれだけはすぐにでもできることなので、やっていただきたいなと思っています。

○本郷谷市長 あとまだ何かあれば、言い残したことが。

○山田委員 さっき教育長から生涯学習のお話もあつて、是非大綱に通底するもの、全体を通すものとして、生涯学習、ちょっと言葉はあんまり収まらないんですけど、生涯学習に取り組む都市、まちということのニュアンスというか、背骨の軸を置きたいなと。

多分、そういうことが入っているといえ入っているんですけども、どうも生涯学習と学校教育と、今部が分かれていますからあれですけども、それは所管がいろいろ行政としてありますけども、やはり大きく、大きな意味で言うと、人間というものは一生かけていろいろ学びながら、自分が大人になってからでも何か身に着けたり学んだりして、成長し続けていって、最後、多分命尽きるまでいろいろなことを学んだり表現したり。

それは例えば人へお手紙書くでも、芸術的と言われなくても、そういう表現を通じて、あるいは人へありがとうという言葉をかけるときにでも、そうやって学びながらいくものだという意味で生涯学習の過程にあり、学校教育もその過程にあるということころで、文化もその中に必須の構成要素として、だから部活動も学校の中で位置づけられて

今いるし、先ほどの松戸市文化祭に代表されるような社会団体や文化団体というものが活躍される素地もあるわけで、松戸市はそれを推進していきます、応援していきますというところの、それが生涯学習という言葉を使うのが分かりやすいかどうかちょっと分かりませんが。

教育大綱の中に、あるいは文化創造都市の中に文化というものが浮かないためにも、人の一生にそういうものが不可欠であると。それをしっかり分かって松戸市は推進します、この辺のニュアンスをぜひ盛り込んでいただきたいというふうに思っております。

○伊藤委員 資料4にあるテーマ1の、文化創造都市の実現に向けてですが、私これを最初見たときに、文化創造都市というのは、文化庁がそういうネットワークをつくって、文化の創造力を活用して地方の都市の産業振興とか活性化につながるようなものにしていきたいという、都市のそういう試みを応援するため、良い取組をしているところは表彰をするということだと思いました。

したがって、この文化創造都市の背景には、都市の経済振興が目標としてあるわけですよ。ですから、ここで言っている文化創造都市の実現に向けてというのが、もしそういうものであるのであれば、現在松戸市は経済振興部のほうでそれに取り組んでいて、さっきから話題になっているパラダイス・エアであるとか、あるいはJOBANアートラインであるとか、それからコンテンツ産業、いろいろなコンテンツが今松戸で盛んなので、そういうコンテンツ産業の振興であるとか、あるいはコスプレの発表をやるとか、そういうようなものに力を入れて、経済振興部のほうでそういう取組をして、それが産業振興とか何かに役立つように持っていこうと。

したがって、そういう文化創造都市をそういう形で目指すんだということで私は理解していたので、もしそういうことをここで言っているのであれば、何かちょっと教育委員会の考えている文化とは違うなど。

教育委員会としては生涯教育の一環としても、松戸市民の素人の方々が行っているいろいろな文化活動、いろいろな文化の関心が皆さんいろいろ分野が違うので、いろいろなものをやれるようにしようという、言ってみれば底上げ的な、文化への関心をみんなに持ってもらう、市民の活動が充実するようにするという、そういう目的で教育委員会は取り組んでいるし、専門家の方に対する支援とかそういったものももちろん、施設を提供したりしてやっているんですけども、何かこの文化庁が言っている文化創造都市の実現というところに向けて、教育委員会がどういう形で直接巻き込まれて、経済振興部のやっているいろいろなものにどう関連していくのかなと思います。

もちろん、学校がそこで対象になれば、教育委員会ももちろん関係して相談にあずかってやるんでしょうけども、どの程度主体的に、この文化創造都市に教育委員会として取り組めるのかなという。もちろん、経済振興部との連携はしていかなきゃいけないし、協力できることやいろいろそこで役立つことであればやっていくんでしょうけども、この中の

柱になるには、何か違和感を感じていました。それはちょっとまだ依然として解決できないんですけど。

○伊藤教育長 教育長です。

今伊藤委員さんがおっしゃられたことも含めて、本当に文化という2文字で全部をくくることって、できないと私は思います。いろいろな文化があって、例えば教育的に言えば、その文化を通じて一人一人が成長する、これは学校も生涯学習も同じ、自分をいかに高めていくかという、そういう文化です。

あるいは、いろいろな人とどうやってつながっていくかというのも、文化の大きい力だと思います。経済的な効果というのはその先にあると思うんですけど、そういうふういろいろな面があるので、教育大綱にどうやって表すかというのは、やはり事務局のほうで、それは言葉を精査しながら表現していただければなというふうに思います。

以上です。

○本郷谷市長 文化で大変、人によって定義も違っていたり、いろいろ難しいところがあるんですけど。文化創造都市という言葉ができたのはヨーロッパで、1990年代ぐらいから、それまでの工業中心からこういう文化を大切にしまちづくりをしていこうという運動が各地で起きてきて、そういったまちに人が住みたいというところに大変大きく貢献してきたという経緯があって、日本でもそういう運動がスタートしているということ。

文化庁がやっているのは文化庁としての一つの視点でしょうけども、やはり我々としても文化を大切に、いろいろなことを行うにしても、常にそれを意識した施策を打っていくという意味で、大変重要な視点だというふうに思っています。

そういう中で、教育委員会ということ、あまり教育委員会であるということをここでは言いたくないんですけど、市のまちづくりあるいは人づくり、いろいろな意味において文化を大切にするまちという意味で、これからも重要な施策の柱の一つだと思っていますし、私自身もその視点でずっとやってきたつもりなので、今後もそれは引き継いでいきたいなと思っています。

また今日いろいろな意見ありましたので、またそれは入れながらお願いいたします。

それから2つ目よろしいですかね。

次は、学校行政の変化による学校教育ですかね。

ここではICT、要するにシステム関係の話が出ていますけども、こういうものを含めて、いろいろ意見があれば言っていただければと思います。

よろしいですか、どなたか。

○山田委員 山田でございます。

GIGAスクールという切り口だけで申し上げるかどうかあれなんですけど、これは社会情勢の変化による学校教育。社会情勢の変化による学校教育というテーマの中の、一つはICT教育の加速化ですよね。もともと予定していたことを、これはこういう環境の中で

急がにゃいかんという、今共通認識、ほぼ日本全国あるいは世界全体で取りかかっている中で、逆にいうと後れるわけにはいかないというところで、これを頑張っていたきたいと思いますが。

この点について言えば、要はコンテンツだと思うんですよ。コンテンツというか、コンテンツを活用した教育現場が何ができるのかということなので。これは必ず物事に両面がある中の、良い面とそれから負の面があると思います。これは先生方も苦勞なさると思いますし、より分かりやすく伝わりやすい、あるいは効率的になる部分と、そのことによって理解が深まらないというか、今まで伝わってきたことが伝わらないようなことももしかしたら、そういったことについて早く研究をして早く実践をするというところで、ほかの自治体とも、これは言ってみれば競争するものというよりも、本当に協力し合って知恵を出し合って、子どもたちのためにやっていただきたいなというふうに思っています。

G I G A スクールについてはそういうことなんですけど、大きなテーマである社会情勢の変化による学校教育というところですね。I C T は I C T として、今何を学ばなければならないかというのが、学習指導要領も変わってきていますけれども、先ほども文化のところでも結局同じだと思うんですけども、すごく多様化している世の中で、かつ社会のニーズも多様化しているところで、私たち大人が立ち往生してしまうような先の見えなさの中で、子どもたちが今何に向かっていくかと。

ここに何を提示できるかというのが、私はどちらかというこの言葉からは非常に感じるところです。先生方が自分の人生をかけて子どもと対峙していると思うんですけども、自分の人生を照らしながら子どもたちに、「さあ、どっちに向かって君は歩く」ということをやるときに、お手本というものが、今の例えば政治家さんとかもはじめ、あるいは有名人の方も迷いとか立ち往生とか、あるいは時に命を絶つような、こんなことが起きているこの世の中で、さあ子どもたちに何を、あなたの将来の幸せとか目標とかあるいは人に対する貢献とか喜びとか、そういったものを出すか。

これは恐らく学習指導要領とか道徳と違ってないところで、やはり先生方の体験を豊かにし、心を健康に保ちというあたりだと思うんですね。そこから人間対人間としてどうできるか。これが私非常に洄とした言い方ですけども、これからの社会情勢の中で、その中で I C T も生かされ、その中でこそ生かされると思っていますので。

さて、それを大綱としてどう書くかはともかく、今望むところというのは、そういった人間性とかいったものを、I C T を含めて教育現場の中でどうそこに酸素を送り続けるか、息を吹き込むかというのが、自治体あるいは教育委員会もこぞってやるべきことなんだろうなというふうに感じています。

感想ですが、申し上げました。

○伊藤委員　また資料4に基づいてお話ししたいと思うんですが、学校教育の中でのグローバル社会で活躍できる人材の育成は、もともと大綱の説明の中にも入っておりますし、

これがちょっと黄色い枠で特記されているものの一つの理由になっているのかなと思います。しかしグローバル社会で活躍できる人材の育成というのが目立ってぼんと出ているにも関わらず、何かその右側の現在の大綱での柱に基づく施策の中に具体策があまり出ていないと思います。その中でテーマ2でまつど英語の推進が入っていて、いわゆる英語教育で、松戸が独自のそういう英語教育をやり英語力を高めてグローバル社会で活躍できる人材を育成していくんだということにつながるのかなというふうに読んでいるんですけども。

さらにここで挙げられているのは、ほとんど放課後の子どもたちの学習環境だとか児童虐待への対応だとか、これは必ずしもグローバル社会で活躍できる人材の育成というものにつながるわけではないので、すでにふれられている英語教育だけじゃなくて、さらに例えば海外での研修をもっと積極的に推進させるとか、あるいはそれに関連するいろいろな政府のプログラムもありますので、それへの参加を推奨するとか、何かもうちょっとグローバル社会で活躍できる人材の育成につながる施策をもう少し考えていただきたいというふうに思います。

○武田委員 あまり私はITに明るいほうではないんですけども、すごく希望的に思っていて、前倒しになったというのはもうしょうがないですね、社会情勢のことなので。ただ、これだけの台数が多いと思われる松戸の児童・生徒全員分の端末をきちんと用意、年度内にできたというのは、これはすごい、素晴らしいことだなと、まずそのことに感謝申し上げたいなと思いました。

それで、4月にきちんとしたスタートをみんな一斉に切れるわけですから、やはりそこは構えて頑張っていかなければいけないですね。これからは中身の話なんですけれども、今まではやはり、今伊藤委員がおっしゃったような特色のある学校というのは、色濃かったと思うんです。というのは、やはり直接的にトップに校長先生がいらして、その学校の特色というものが当然おありになった。

ところが、端末を通じて全学校がつながることができるようになるのがこれからの時代です。一番懸念されてきた問題として、教員の年齢差というものに、今40代、50代の教員があまりにも少なく、若い世代と退職間近な先生たちという構造になっている中で、残された時間の中で、持ってらっしゃる先輩の先生方のスキルを全教員に共有することができるとてもいいチャンスが訪れたと私は思っていて、若い方が一斉に学べるチャンス、そして、先生によって力の格差というよりも、それは個性なのかもしれないんですけども、個性の偏りではないある一定の水準の教育というものが、全生徒に均一に受けることがかなうというプログラムを構築していくスタートに、まさになるんだと思います。

もう一方で思っていることは、子どもの思考の多様化というものにもこれが対応できるというのが、すごく良い点だなとっていて、例えば一つの授業をやる中でも、私が授業をさせていただいたときもお願いしたのが、一つの今現在手を動かしてやることに附随して、例えば金箔の作品を作るといったときに、歴史上日本のいろいろな宝物があつて、こ

ういう技術が残されていて、その一部を使って今作品制作をしているんですよという参考資料を同時に学習して欲しいということです。

例えば仏像の衣文の截金であったりとか平家納経であったりとか、そういう国宝の中に使われているような金箔の細工、あるいは松戸神社の天井画や杉戸絵の砂子であったり、そういう全てのものが同じ技法なんだよということを頭に知識として置きながらも作業できるようにになります。そんなの見ないで自分は作ることに一生懸命やりたいという子どももいれば、作ることは上手じゃないけれども、でもそういうものを見るの楽しいと思ってくれる子、心に残ったり記憶に残ってくれる子もいれば、そうじゃない子もいるかもしれないけれども、興味の強弱に関わらず、提供することは個々の先生が準備するよりもより効率的にできるのではないかと想像します。

働き方改革の中で一回テキストをつくってしまえば、先生たちの手間は省けるとというのがこの端末のいいところで、個々の子供たちが興味があれば振り返って自分が復習することもできる、あるいは予習することもできる。ここを見てみて、興味あったらここも見てみてという発展的な提案ができる。こういう先生たちと子どもとの個々の関わり合いというものが、新たな段階に入れるチャンスなのかなと思って、すごく楽しみにしていて、学校の掲示物でしかできなかったことが、個々に対するアプローチの掲示物になるんじゃないかというふうに、今は、私は割とわくわくした感じで、そういう使い方ができたらいいなと思っています。

2学期こんなことをやるけれども見てみてという様に、予習的学習というと何か硬いんだけど、見たら楽しかった、これやるの楽しみというふうに、子どもたちが前向きに挑めるような理科であったりとか、歴史のものでも、全然違うコンテンツを持ってくことで、より深い学びに近づける子どもが、全員じゃなくていいですよ。みんなが全部のことに興味持つ必要はないので、好きなことを深められるチャンスにつながっていくかなと私は思っております。

以上です。

○山形委員 山形です。

社会情勢の変化における学校教育というところで、8つのポイントにまとめてみました。

一番やはりウィズコロナでどうやって生きていくかというところで、想像以上に子どもたち、大人たちはストレスがあるということの現実性をもっと多くの人が、このコロナに関する価値感覚とかも全く違うので、そこの部分を統一した見解があるような、アンケート調査を療育医療センターが大きく調査したものがありますので、そういうものを参考にしながら見ていくことを重視していくことが大事なのかなと思います。

先ほど山田委員がおっしゃったように、有名人の自死のニュースなどが続いています。では、メンタルが壊れたときにどこに行きますかとなったとき、すぐに心療内科に行ける人もいれば、心療内科に行くことすらできない方なんかもいますので、その仲介になるよ

うなメンタルケアサポートも学校のほうが受け止められるようなシステムを、今後の教育視点では重要なポイントになるのかなと思います。

もう1点、地球環境のことも考えていくことも重要です。すごい大雨が続いて、子どもたちは不安になると思います。親たちもそういうことで仕事を休まなきゃいけない。そして仕事を休んで、また経済不安が出てくる、またストレスが大きくなる。そういうところでのソーシャルワーカーさんがいらっしゃいますけど、福祉に絡むような、家族のサポートもできるような学校体制というのが今後必要な教育現場であるとともに、次のポイントが、武田さんがおっしゃったように、本当に一人一人が大切にされているんだと自覚できるようなシーンがあることが大切と考えます。

SDGsの考え方で、誰一人取り残さないんだというポイントの中で、つながることというのに、今はマスクをしながら、パーテーションがあるなどがあります。先日中学校の図書館に行ったら、パーテーションが予算の関係上段ボールでした。ソーシャルディスタンスがある中で、一人一人のつながりの重要性と、一人一人の個性を大切にすることで、発達の問題、あとは感覚過敏の問題なんかも今よく話題になっています。

サッカー場等で、お子さんが大きな音で見えられないとか、そういうときに配慮したお部屋があるとかヘッドフォン、合理的な配慮も、もっともっと認められていかなきゃいけないところがあると思います。

その中で、やはり何か気持ちの問題、ストレスの問題、たった1人で苦しんでいく中に、いじめというところで何か問題があるのかなというふうにつながっていくのかなと思います。よくある啓発で、いじめはだめだ、ストップだ、絶対許さない、それはやってはいけないことではあるけれども、加害者にも理由があるというところをきちんとケアしていかなきゃいけない。その部分も丁寧に見るためにも、一人一人を本当に大切にしていかなきゃいけない部分があると思います。

3点目が、これからもう、ICTのタブレットを先ほど見せていただきましたが、オンラインとリアルと、両方バランスよくやるハイブリッド型というのを、先生たちも生徒たちも両方慣れていかなきゃいけないのではないかなと思います。私自身、講師業務をしていますので、オンラインで10名程度、会場のほうを静岡とつないで、向こうの会場に30人ぐらい子育て中のお母様たち、スタッフたちがいて、相互作用で講演会などをさせていただいています。両方でできるようなことがこれからのニーズとして必要だと思います。

4点目が、部活動に関してもこれからの社会情勢に合わせというところでは、働き方改革もありますが、諸外国は部活動ではなくてクラブチーム、地域でスポーツをしていく、少子高齢化もあって、今野球部ができないとか、バスケットボールチームがなかなか人が集まらない、やりたくてもできるスポーツの部活がないから越境してみたら、そこに部員が集まらなくて結局そのクラブはできなかったとか、ずっと試合ができないなんてケースもこれから起きてくる可能性もあります。スポーツの在り方についても考えていかなきゃ

いけないのかなと思いました。

5番目に、PTAの在り方についても、やはりその学校学校任せになっている部分があると思うんですが、今回、私もコロナ禍の以前からPTAの役員をさせていただいていますが、なかなか手がいない現状が厳しくなっていますし、ストレスでもう体調を崩されたなんていう話もちらほら、ほかの学校で聞いたこともあります。

今後の在り方と、やはり働く親御さんが増えている背景があります。特に松戸は働くご両親が多いまちなので、ここの点の在り方も、東松戸のようなボランティア的な発生で、本当に子どもに必要なことは何だろうか、学校のつながりは何だろうかというところで、もっと開かれた学校やそういう地域の人と一緒に交流しながら、負担感のないような運営というの、何かしら少し提示していったほうがいいのかなどは思ったりします。

大田区でも、PTOという学校サポーターというシステムになった学校があります。メールでホームページを見て、やれる人、ボランティア集まってみたいなやり方もやっている学校等もあつたりしますし、越谷市は市を挙げて連合PTA会を脱会したりなどもありました。

6番目が、フリースクールとホームスクールというところを、これからの情勢に合わせてやっていただきたいなと思っています。やはり私立の小中高の一貫校だったら、もう自由にいろいろなことができるのと、フリースクールもお金があれば、学校行けなくなりました、ご自身の都合が、いろんな事情でお子さんに、そして何で行けなくなったのと皆さん聞くんですけど、何で行けないかも、子どもも分からないぐらいつらくてしようがない、そのぐらい心が痛んでいるという状況の中で、選択肢が次なかなかないんですが、経済的に余裕があればフリースクール、ほかに選べることがありますけど、まだまだ少ないです。

その一方、ホームスクールという形で、今自主的に学んでいる親御さんも増えていますが、まだまだ皆さん手探りしながら、ただ、千葉県教育委員会はフリースクールの検討会なんかもやってくださってはいますので、これから広がっていくとは思いますが、助成金等はどこの市もやっていませんので、そういうことも今後検討していかなきゃいけないのかなと思います。

松戸市には夜間中学校があつて、それはすばらしい取組だと思うんですが、現役の中学生が行けなくなったときにどうするかというところが、今適応指導教室1校のみになっていますので、その辺も、今後必要であれば日中のフリースクールや、もしくは民間のフリースクールをやっているところ、オンラインでやっているところなどと協力しながら、連携したような新しい取組もあつてもいいのかなと思いました。

7番目が、オンライン化してどんどん豊かにはなっていく一方で、子どもたちは実体験というのは激減していると思います。公園でドングリを拾ったことがない、アリをつかまえたことがない、虫をつかまえたことがないということもあつたり、キッチンに入ったこ

とがないとか、お米をといでと言ったら洗剤を入れてしまうとか、そんな現象も起きがちなんですね。

そんなこともあるので、五感に即した実体験のこと、家庭科というのがやはり生きる力になっていきます。どんなに賢くても、やはり日常の家事ができないと生きていく力には直結しないので、そういうところが充実できるようなことも大切かと思います。

最後に、やはりいろいろなことがある中でも、日本語がすごく大切なんだなと思います。英語教育に松戸は力を入れていて、それは本当に素晴らしいと思います。英語に接するし、松戸は多様な国の方々がいらっしゃるので、英語に触れることは本当に大切なんだけど、その中で正しく日本語を使えて会話を通して、もしくはそれが対話、親子がやはりすぐ理由を言ってごらんとか、答えを問い詰めるようなのではなくて、『どうしたい?』というような対等な関係で、子どもの思いを引き出すようなエデュケーションという部分での関わりの対話をする場面をどんどん、家庭でも学校でも増やしていただけたらなと思います。

以上です。

○市場委員 市場です。

あまり考えがまとまらないんですが、コロナのことは置いておいたとしても、ICTの技術とか生命科学技術とかが今後急速に進んでいって、社会が大きく変わっていくであろうという前提がまずあるんだろうと思います。

そうなったときに、今の小中学生が社会の中核になる20年後、30年後にどういう社会になっているかというのは、今僕には全く想像がつかないというのが本当です。僕、医者という職業が10年後はあるだろうなと思うんだけど、20年後はあったとしても、今と全然違う仕事の可能性は十分あると思っています。

そういう社会に活躍してくれる今の子どもに必要な能力というのは一体何かというと、ちょっと本当に想像がつかないんです。そうはいっても、もちろん現実としていろいろなことをやっていかなきゃいけない。

本当に漠然とした話になっちゃうけど、公教育というのは、継続性とか公平性とかそういうものに比較的重点を置いてやらなきゃいけないものなんだと思うけれども、そういうことを置いておいて、何か大きく変えなきゃいけないようなことが、どんどんどんどん出てくるんじゃないかなという気がしています。今そういう感想しか、言えません。

○伊藤教育長 GIGAスクールのほうは、本当に先ほども武田委員さんからありがたいお言葉があったんですが、私もそう思います。本当に担当課が必死になって頑張ってくれて、これだけの大きい自治体で、しかもほかの自治体よりも早くそろろうというのは、本当にすごい。

ただ、以前から申し上げているように、ICTは確かに良いツールなんですけど、万能じゃないので、そこに頼り切らないように、あるいはOECDとかが以前から警鐘を鳴ら

しているように、あるいは研究者、特に脳科学のほうの研究者の方々からいろいろな警鐘が鳴らされているように、きちんと実験、検証を確かめながらやっていかないと、下手するとデメリットも生みかねないというふうに私も思いますので。

例えば先進国というか、世界トップクラスのシンガポールも、3年間の実験の後に、低学年にはタブレットの供用をやめた。やめたというのは、それなりのちゃんとした実験の検証があるわけで、そういうところは私たちはまだ経験していないので、急ぐけれども慎重に進めていきたいなというふうに思っています。

この「変化による学校教育」とあるんだけど、何か変な日本語だなと今、「変化による学校教育」って何だと、実は思いながらいます。ただ、本当に大きい変化の中で、これからは進まなくてはいけなくなる。ですから市教委で言うと、学校教育部には本当に重い負担がこれから出てくるかなと思っています。

なぜかという、ICTふうと言うと、学校教育の新しいOSを作らなければいけない時期に来ているのかな。一人一人とか個を大切にとか言いながら、やはり日本の学校教育というのはこれまで一人一人ではなくて、集団に対しての学校だった。ところが、そこをこれだけのいろいろな変化の中で、確実にというか、いよいよ真面目に、真剣に、個を、一人一人を、というふうにやらなきゃいけないときに来たのかなというふうに思います。

ですから、そうすると、これまでの学校の意識をやはり大幅に変えていかなければいけないわけです。そのためには人も金も要るので、国もそれなりに考えてもらいたいんですけど、でもそれだけの変化に対応する学校教育というのがこれからは求められていくし、求めていかないと、市場委員さんからあった10年後、20年後に通用する人材というのはなかなか育てられないのかなというふうに思います。それだけこのキーワードはすごく大事なところかなというふうに、改めて思っていました。

○本郷谷市長 あと何かありますか、言い忘れとか。

○山田委員 最後に手短に。

恐らくあと1回は総合教育会議が今年度中にあるのだろうと思いますし、教育大綱の見直しというのが、一応そこで何らかの成案を得るところまで行かれるんじゃないかというスケジュール感で参加しているんですが、そうなったときに、先ほど文化創造都市の文化をどういう共通項で松戸の文化を表現するかというのと同じように、全然違う話ですけど、教育大綱の中にどういうふうに表現を盛り込むかというところは、本当に磨いて磨いて、何が共通項なのかをぜひ、ご担当の方は本当にご苦労だと思いますが、今までの議論をぜひ踏まえて、磨いたときに、基本理念は変えませんという、今一応位置づけなのは少し気になります。

もしかしたらそこは動かさないというよりも、そこも含めて検討していただきたいというのが、今のところのご提案がこうだとすれば、感想を持っています。何が良いかというのは抜きにして、一応申し上げておきます。

以上です。

○本郷谷市長 あとよろしいですかね。

G I G Aスクールということで、手段が調っていくわけで、ただ手段が調うことで、それによって、教育長が言われたように在り方までみんな変わってくると思いますね。また変えないといけないというふうに思います。集団の教育から個々の教育と言われてはいますが、それができるような環境ができてくる可能性があるわけですから、そういうところまで入って、ただ単に授業をこれでやるというだけの議論じゃなくて、さらに進めてほしいなというふうに思いますね。

それから、環境の変化という意味では、山形さんがたくさん言われたけども、まさにどれもみんな大切な環境の変化で、本当にこの中でどうしていくのかと、こういう感じは、市場さんが言われたように、こんな20年、30年後の子どもをどうやって育てるかといったら、本当に大変な今のAIとかいろいろな環境変化もありますので。

とは言いながら、その中で我々もデータをしっかりとして、子どもたちの教育に当たっていく必要があると思いますので、特にこの辺も大切な、環境の変化というのは本当に大切だと思いますので、注意を払うというのはおかしいですけども、大変重要な視点だというのはそう思いますので、これからもよろしくお願いします。

◎その他

○本郷谷市長 そしたら、時間もあれなので、3つ目ということで、特にこれ以外で意見がありましたら、いろいろ何でも結構です。

○山形委員 先日、緊急避妊薬が薬局で発売されるようになるという報道も流れてきましたが、性の健康、セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツでSRHR言われていますが、日本はかなりその分野では、世界からみると後れを明らかにしています。

並行しまして、内閣府のほうから提案された性暴力防止3か年計画の中で、来年の4月から、「命の安全教育」というものが子どもたちに届けられるという報道もありました。性暴力に関しましては、アメリカのほうでオバマ大統領が就任されているときのプロモーションで、「one is too many」という言葉がありました。1人でも多い、1つでもあってはいけないことなんです。

この部分に関しても松戸市でも男女共同参画センターなども動いていらっしゃると思いますが、この点についても力を挙げて、やはり1人でも性の暴力によって、魂の殺人なんという言葉も使われたりしますし、一生の傷でずっとトラウマで、そしてその被害を消し去ったように生きたと思ったら、子育て期やまた何かがあったときにふと出てきて、それがまた犯罪加害者になるケースなんかもあったりします。そんなデータもありますので、ここに関しても、今後市も挙げて力を入れていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○本郷谷市長 よろしいですか、何か言いたいこと。

○武田委員 先だってあった松戸のたからもの展で、松戸で収蔵している美術品を順番に、大体10回ぐらいやらないと全作品の公開展示はできないそうです。それが隔年での開催という、全作品をみるのに20年ですよ。そうすると、ほぼ見られないものがたくさんあるということは、想像に余りあります。

実際市民の税金で買ったものが、拝見していただくチャンスを得られないでいるというのは、あまり健全な形ではないと思っていて、だとするならば、箱物を造れということではなくて、箱物ができないのであれば、何ができるだろうかとということを少しきちんと考えていかなければいけないなと思っています。

先ほども申し上げたんですけども、剣持勇先生のインダストリアルデザインの椅子などは、今でも現実に作っていますから、ぜひ市長室で使っていただくとか、そういった形で市内外のお客様に自慢して見せていただくような、そういう常設展示という形もあるのかなと思います。奥山儀八郎先生は、すごく松戸の方は知っているけれどもも思っていられしゃるかもしれないけども、さにあらずで、この間、国立近代美術館に行きましたら、近代の日本画、版画が並んでいるところに奥山先生の風景画の版画もきちんと並んでいました。

そういうことをちらっと、例えば学校の朝礼のときにおっしゃってくださるでもいいし、例えば職員の朝の何かご挨拶のときに、「今展示されているので、もしお時間があつたら見にいらしてください。」そのぐらい目を光らせて、常設で見せられないのであれば、その他のチャンスに対して敏感になっていただきたいと思います。

許されるのであれば、インダストリアルデザインとして残っている染色のテキスタイルであるとか、大橋先生のデザインを、本当に優秀なものが多いので、何か松戸のグッズとして制作して見る機会を増やすのは可能かと思えます。先ほどいただいたマスクケース、あれも良いです。もちろん良いんですけども、ここに大橋先生のデザインのものがあったら良いと思います。そしたら人はきっとお金出して買います。そのレベルのすばらしさのものがあるにも関わらず、宝の持ち腐れのように流布していないという現状を、もう少し知恵を結集して、何となくみんな市民が知っている。あ、これ松戸にいた人のデザインなんだよね、かわいいよね、私も好きというぐらいの軽い感じでも、財産を共有するというのをぜひ推進して行ってほしいなと心から思っております。

○本郷谷市長 あとよろしいですか。

コロナで何かありますか。特段ないですか。

それでは、そろそろ時間も過ぎましたので、今回はこれまでといたします。今日の意見を踏まえて、また事務局のほうでいろいろと議論をしてください。

最後に、事務局から連絡事項等ありましたらお願いします。

○上野総合政策部審議監 繰り返しになりますけれども、本日いただきましたご意見等を踏まえまして、事務局のほうで教育大綱の改定案を作成したいと考えております。次回の

会議におきまして、またご協議いただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

◎閉 会

○本郷谷市長 では、これもちまして令和2年度第1回の松戸市総合教育会議を終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。